

心温まる「さとやま」のくらし

# 庄原市



広島県 庄原市さとやま体験交流協議会

〒727-0021 広島県庄原市三日市町4番地10

TEL:(0824)75-0173 FAX:(0824)75-0172

(事務局:庄原市商工観光課、(一社)庄原観光推進機構)



# 協議会の概要

## 庄原市について

庄原市は中国山地のほぼ真ん中に位置し、世界三大天然橋『雄橋』や、比婆道後帝釈国定公園など、豊かな自然に囲まれた地域です。また、和牛改良の発祥の地とも言われる伝統ある畜産業や、広島県内最大級の生産量を誇る大根や夏イチゴ、西日本では珍しいリンゴなど、屈指の農業地域でもあります。

### 構成

- ◆ 庄原市役所  
庄原観光推進機構  
教育委員会 自治振興連合会 など
- 会 長・・・庄原市副市長
- 事 務 局・・・庄原市商工観光課  
(一社)庄原観光推進機構



### 受入体制

- ◆最大受入生徒数 330名
- ◆民泊受入家庭数 165軒(令和元年10月末現在)
- ◆受入中は事務局スタッフ2名が24時間体制で対応
- ◆民泊家庭は年1回以上の安全衛生講習会を受講



### 受入実績

年度	受入校・生徒数	内訳
平成28年度	1校231名	関西中学校1
平成29年度	6校1,190名	中国中学校1、関西高等学校1、関東高等学校3、台湾高等学校1
平成30年度	3校600名	関西高等学校1、関東高等学校2
令和元年度	4校462名	関西高等学校1、関西中学校2、九州中学校1

# 庄原市へのアクセス

出雲空港⇨庄原  
約85分(92km)  
中国やまなみ街道 経由

中国やまなみ街道  
通行料金 無料  
(一部区間を除く)

距離と時間の目安(飛行機・新幹線・電車+バス)

1	東京	800km	270分
2	神奈川	750km	270分
3	千葉	820km	280分
4	名古屋	440km	270分
5	岐阜	460km	310分
6	静岡	600km	360分

平和公園⇨庄原  
約85分(97km)  
広島高速4号/中国自動車道 経由

尾道駅⇨庄原  
約70分(74km)  
中国やまなみ街道 経由

福山市沼隈・内海町

他地域との共同受入れにより  
400名規模の受入れも可能!

大崎上島町

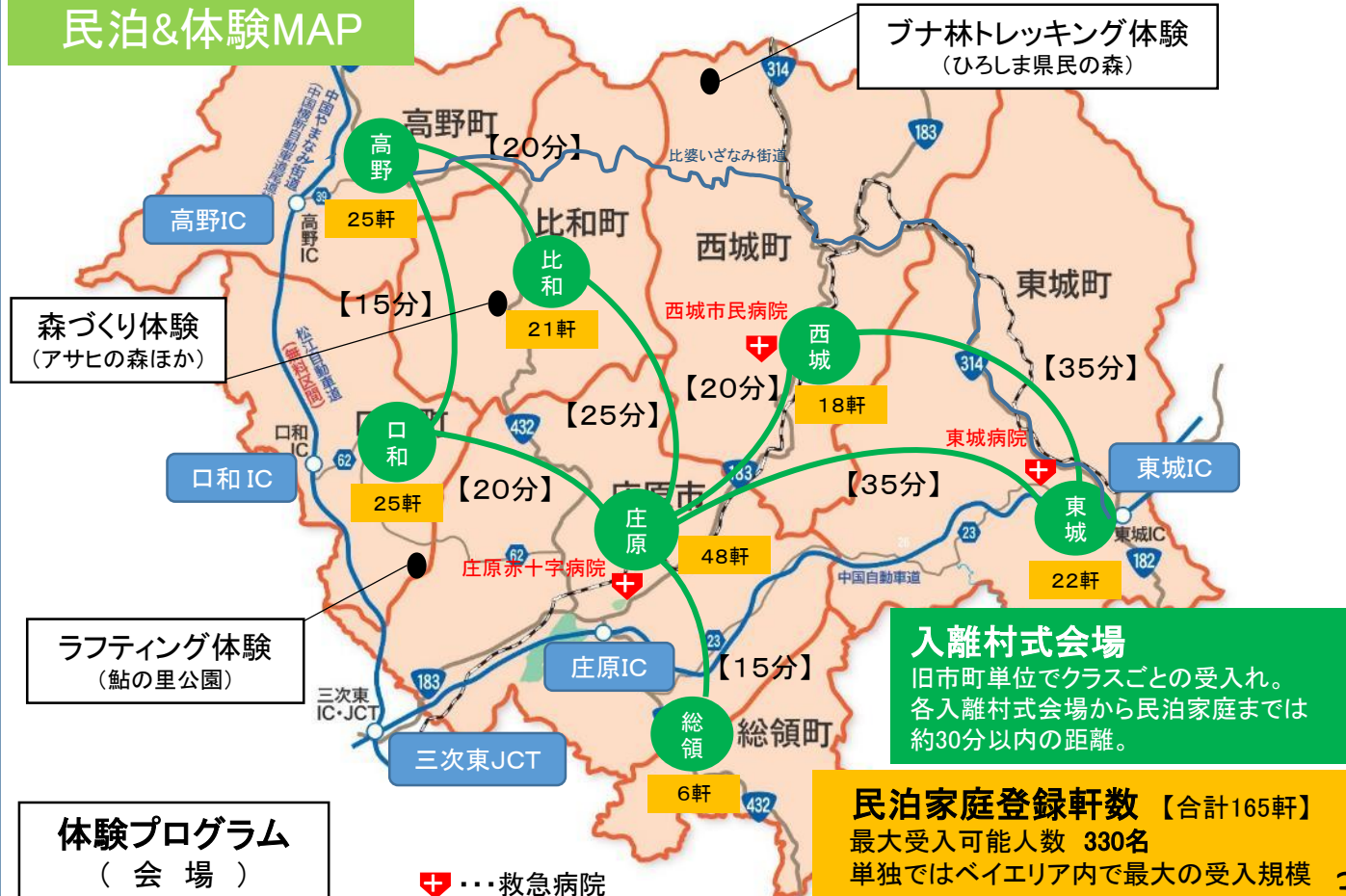
広島駅⇨庄原  
約90分(100km)  
広島高速4号/中国道経由

周防大島町

至四国方面

至九州方面

## 民泊&体験MAP



# なぜ今、庄原市なのか

## ①学校毎のニーズに沿ったカスタマイズプログラムが提供可能

日本の中山間地域では、少子高齢化・人口減少に伴う経済活動の縮小や社会保障費の増大、生活インフラの衰退など数多くの問題を抱えています。こうした中山間地域での課題をテーマに、持続可能な社会づくりの意識を形成する課題解決型プログラムやSDGs関連プログラム、アクティブラーニング対応プログラムなど、多様化する教育現場の中で、学校側のニーズに応じたカスタマイズプランを提供することができます。



有形文化財の修復作業



地元住民との環境整備



地元大学との連携活動

## ②あたたかい交流の時間を通じた「心の成長」

豊かな自然は豊かな心を育みます。田舎では昔から農作業などお互いに協力し支え合うことで暮らしが成り立ってきました。人間関係やコミュニケーションが希薄になりつつある現代において、庄原市にはこうした「人と人とのつながり」を大切にする文化がまだ残されています。こうした体験を通じて得られる交流は、豊かな人間性や思いやりの心などを育成します。



## ③ベイエリア最大の受入規模

### 【共同受入による大規模校受入の実績】

- 平成29年度：千葉県高等学校 308名(周防大島町・安芸太田町と共同受入)  
神奈川県高等学校 451名(大崎上島町と共同受入)
- 平成30年度：神奈川県高等学校 384名(江田島市・福山市沼隈内海町との共同受入)

庄原市単独で最大**330名**までの受入が可能です。また、他地域との共同受入により400名を超えるような大規模校の受入も可能となります。

豊かな自然に囲まれた田舎のくらしを体験

# 民泊・家業体験



## 民泊・家業体験の流れ(一例) ※1泊2日の場合

1 日 目	13:30	入村式
	14:00	各家庭へ移動
	14:15	家業体験
	17:30	夕食作り(共同調理)
	19:00	夕食、片付け、お風呂
	22:00	就寝
2 日 目	6:30	起床
	7:00	朝食作り(共同調理)
	8:00	朝食、片付け
	8:30	ふりかえり
	9:00	離村式会場へ移動
	9:15	離村式・見送り

入村式で民泊家庭と対面



家業体験(イチゴの収穫)



家業体験(ヤギの世話)



家業体験(こんにゃく作り)



食事作り(民泊家庭との共同調理)



民泊家庭との夕食・団らん



離村式・見送り



## 【体験内容の例】

野菜の栽培・収穫、家畜の世話、草刈り、郷土料理作り、まき割り、手芸体験、星空観察、里山散策 など  
 ※家庭や季節によって食事や体験内容は異なります  
 ※お客様ではなく「家族の一員」として過ごし、家庭での仕事を手伝っていただきます

# 対話を重視した「民泊体験」

## ■ プログラムの概要

庄原市に住む人々との「対話」を通じて、社会の一員として将来を描くためのヒントを得るための教育プログラムです。

庄原市における民泊体験の中で、「働くこと」「生きること」等のテーマについて、自ら考え、表現、判断する力を養うと同時に、自分の将来や働くことへの価値観を磨くことを目的としています。



## ■ プログラムの進め方

### STEP1 事前学習

学校で

・ワークシートを使用してそれぞれの「問い」を考えます  
例:「働く、って何だろう」 ※グループ・個人どちらでも可

・「問い」の答えをイメージします  
例:「庄原市で働く人の考えは・・・」

### STEP2 体験・民泊

庄原に滞在中

・「問い」を庄原の人にインタビューします  
例:「仕事のやりがいって何?」「仕事で大変なことは?」

・インタビューの答えをワークシートに記入します

### STEP3 振り返り

庄原  
又は  
学校で

・自分の気付きや学んだことをワークシートにまとめます  
例:「だれかに喜んでもらうことが働くことの「やりがい」だった」

・それぞれの成果を発表し、意見を出し合います



# ラフティング体験



8人乗りの特殊なゴムボートに乗り込み、みんなで力を合せて川を下る「ラフティング」はチームワークと主体性の醸成に最適です。

フィールドとなる西城川は江の川の源流で中国山地の美しい大自然を満喫することができます。



## ■ 期待される教育効果

- ◇全員で力を合せて川を下ることによる、チームワークと主体性の醸成
- ◇舟運やたたら製鉄の名残など歴史的背景から先人の知恵を学ぶ
- ◇大自然に親しむことによる、環境保全への関心と理解の向上

## タイムスケジュール(例)

12:00	鮎の里公園集合、着替え、準備体操
12:30	バス移動(車内にて注意事項確認)
12:45	スタート地点着、準備
13:00	ラフティング体験開始
14:20	ラフティング体験終了、まとめの会
14:40	片づけ、着替え
15:00	プログラム終了

■体験会場 西城川 (最長約5km)

■最大体験人数 120名

午前・午後の分割で240名まで可

■時期 4月1日～6月10日 / 9月1日～3月31日  
※鮎漁の解禁期間を除く

### 【注意】

天候や川の水位によって距離の変更や他プログラムに変更となる場合があります。

# ブナ林トレッキング



国の天然記念物に指定されているブナの原生林をフィールドに自然観察しながら散策します。

自然災害が多発する近年において、森が担う役割や私たちの暮らしとの関係について学び、自然環境の保護や活用について理解を深めるプログラムです。



## タイムスケジュール(例)

12:00	会場集合(ひろしま県民の森)
12:10	安全確認、注意事項伝達
12:20	トレッキング出発、ブナ林観察
13:50	折り返し地点到着、休憩
14:10	トレッキング再開
15:00	下山、まとめの会、プログラム終了

- 体験会場 比婆山(ひろしま県民の森)
- 最大体験人数 120名(1班10×12班)
- 時期 4月～11月

# スポーツ雪合戦

団体で行うスポーツ雪合戦は、リーダーシップや役割分担などチームワーク醸成に必要な要素が含まれており、戦略戦術性に長けたプログラムとなります。

庄原市は全国でも有数の強豪地区であり、2016年の全国大会では小学生の部・レディースの部・一般の3部門で優勝しています。



冬季以外でも屋内で実施可能

## タイムスケジュール(例)

12:00	会場集合、着替え
12:20	競技説明、安全確認、注意事項伝達
12:40	チーム戦略TIME
13:00	スポーツ雪合戦 開始
14:30	スポーツ雪合戦 終了
14:40	着替え、片づけ、まとめの会
15:00	プログラム終了

- 体験会場 市内の運動公園他  
※屋内の場合体育館等で実施
- 体験人数 320名  
※屋内の場合80～160名(会場により異なる)
- 時期 1月中旬～2月  
※屋内の場合通年で実施(体育館内で実施)



# 生徒用宿泊施設／本部宿舎

## かんぽの郷 庄原

庄原市新庄町281-1

TEL:0824-73-1800



外観（正面入口）



和室タイプ



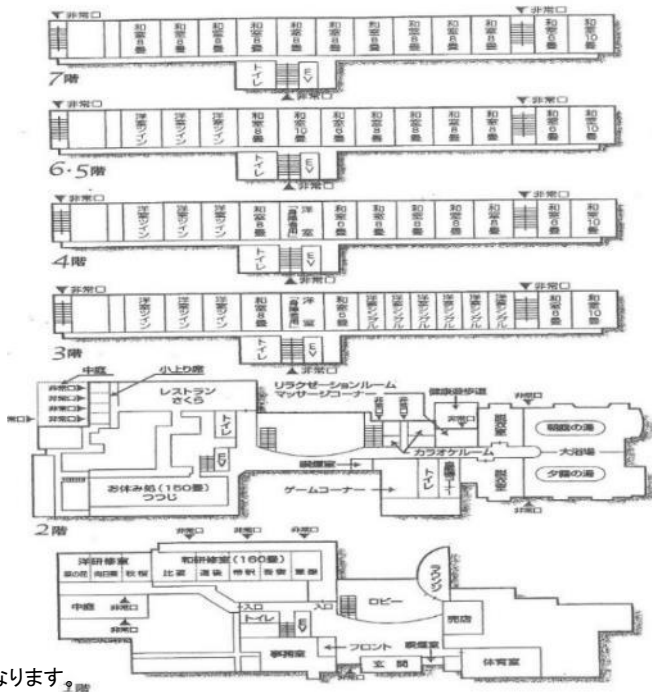
洋室タイプ



天然温泉



夕食メニュー



客室

全62室(和室42室、洋室20室)

定員

100名

※ハイシーズン、土日祝日前は別途料金となります。

# 緊急事態時の連絡体制

事故・トラブル発生

状況把握

連絡

119番

庄原市さつやま体験交流協議会 事務局

本部  
庄原市観光協会  
代表TEL(0824)75-0173  
専務理事

連絡・手配

庄原市企画振興部  
観光振興課  
TEL(0824)73-1179  
課長

現場へ

協議会長  
(庄原市副市長)

庄原市長

情報共有

庄原警察署 0824-72-0110  
庄原消防署 0824-72-9911  
北部保健所 0824-63-5181

【救急指定】

庄原赤十字病院 (0824)72-3111  
西城市民病院 (0824)82-2611  
東城病院 (08477)2-2150

【二次救急】

三次中央病院 (0824)65-0101  
三次市救急センター (0824)62-1103

【本部宿】

TEL: 学校責任者  
TEL: 旅行添乗員  
TEL:

保護者

協議会の  
車両で移動

現場へ

情報共有

事故及びトラブル発生現場確認

関係機関・学校・本部と協議の上、対応を検討

# 新学習指導要領改訂に対応して 「主体的・対話的で深い学び」のために

新学習指導要領の改訂で従来からの「生きる力を育む」に加えて「主体的・対話的で深い学び」の視点から特別教育活動、とりわけ修学旅行等で、その実現に向けての期待が高まります。主体的に事前、事後学習を行うことに加え、現場での対話的な体験学習により狙いの深い学びとなります。旅行先での学習のテーマは地域事情に合致したものでなくてはなりません。地域の魅力と課題を示すことにより主体的なテーマの選択が可能となります。

## 魅力

### ①住民主体のまちづくり活動

オープンガーデン、逸品作りプロジェクト、比婆山神話観光ガイド、ブランド米の構築など、住民の地域への愛情が深くまちづくりへの活動が盛ん。

### ②広島県で最大級の農業のまち

県内でも最大級の農業王国。独自のお米作りや畜産業、西日本では珍しいリンゴ栽培や四季がもたらす食材など、食育の現場がここにある！

### ③多様な文化が息づくまち

島根、鳥取、岡山と隣接し、山陰・山陽の文化を併せ持つ庄原市。中国山地の大自然に囲まれた自然と共生する里山のくらしが受け継がれている。

## 課題

### ①地域活力の低下

人口減少、高齢化に伴い、子どもが少なくなり、地域の活気が失われている。先祖から受け継がれてきた伝統的な里山のくらしも継承が危ぶまれている。

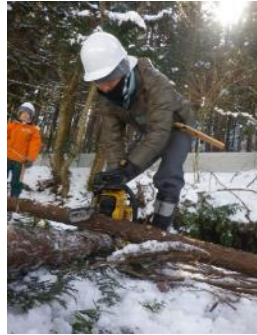
### ②里山景観の維持が困難

耕作放棄地の増加、農地・山林の保全管理が困難に。里山特有の自然環境が失われ、人と自然のバランスが崩れつつある。

### ③集落機能の低下

人口減少による地域の担い手の減少で道路や水路の清掃、雪かきなどが困難。特に豪雪地帯では冬は雪かきが生命線。地域での助けあいにも限界が。

# 庄原から林業再生！森づくり体験



## ■ プログラムの目的

庄原市をはじめとした山間地域では、良質な水を供給し、保水能力があるとともに、生態系を維持する役割を果たしている森林の荒廃により、里山特有の自然環境が失われ、人と自然とのバランスが崩れつつあります。特に近年では局地的豪雨による土砂災害などの被害が深刻化しています。

このような森林の荒廃を食い止め、持続可能な生態系を再生されるにはどうすればよいか、現地での体験等を通じて、ともに考え、取り組むことを目的としています。

## ■ 取組み概要

- ・荒廃した森を間伐作業などによって再生させ、森の保水力の回復と生態系の維持を図る
- ・間伐材の活用に取り組むことにより、限りある資源の有効活用による循環型社会の形成と環境保全意識の醸成を図る
- ・都市部の若者が農村で森林保全の活動することにより、都市部と農村部間の経済、社会、環境面における強靱なまちづくりに向けた相互連携に取り組む

## ■ 教育効果

- ◇山間部の現状を肌で感じ、森林の役割に対する理解を深め、それを保全することの大切さを学習します
- ◇地域課題を考察し、解決策を導き出すことで、課題解決能力の醸成、地域貢献のあり方を学びます。
- ◇事前学習から発表までの一連のプログラムにより「思考力・判断力・表現力・提案力」を養います。
- ◇現場での作業体験等を通じて安全対策や危機管理能力を養います。

プログラム一連の流れ		現地でのスケジュール	
①事前学習	中山間地域での現状と課題を学ぶ	0:00	体験会場(会議室)へ集合、装備品の着用
②現地説明	担当者から現地で概要や課題の説明	0:15	当市の現状や問題点等を説明
③現地体験調査	インストラクターの指導のもとで現地体験や実態調査等	0:35	安全確認(体調等)、事前講習
④感謝状	市から感謝状の贈呈	0:50	実施フィールド(森林内)へ移動
⑤学習内容の発表	学習した成果のまとめや問題解決について生徒から発表	1:10	体験開始(間伐作業等)
		3:10	体験終了、体験会場(会議室)へ移動
		3:30	体験の振り返り、まとめ
		4:00	プログラム終了

【体験人数】  
120名  
(1地域40名×3地域)

【時間】  
4時間

【時期】  
5月～11月

# 規格外農作物の加工体験

## — 食品ロスを学ぶ —

### ■ プログラムの概要・目的

現在、食品廃棄物は1,500万トンを超え、食品ロスも600万トンを超える規模となっています。これは、世界全体が援助している食糧の約2倍に相当し、その廃棄コストは年間2兆円にも及ぶと言われています。庄原市においても農作物(規格外)の廃棄による経済損失は計り知れず、こうした流れに歯止めをかけるべく、規格外農作物の利活用を中心に食品ロス対策、および所得向上への活動が盛んに行われています。

このプログラムでは、規格外農作物の廃棄加工状況を学び、また、捨てられるはずだった農作物を加工して利活用する取組みを体験することにより、持続可能な生産消費形態の構築に向けた意識の醸成を目的としています。

### ■ 取組みの効果

- ・規格外農作物の利活用を考え、食品ロスの重要性を学ぶ。また規格外農作物の加工利用の活動を行っている様々なメンバーと協同して取り組むことにより、文化・習慣・価値観など多様性に向き合い、他者の持つ視点・価値観を理解する能力を養う
- ・生徒個々が今からできるSDGsとして、残飯量の削減や消費期限の短い物を購入したり、廃棄食品にならない為の冷蔵庫内食材の消費期日確認など、日常生活で継続して行うことができる活動として取り組む
- ・食品ロスに対する意識変革により、未来の地球社会を創る担い手として、主体的に活動する市民を育成する



【体験人数】 80名(1地域40名×2地域)

【時間】 4時間

【時期】 5月～11月(雨天決行/荒天時は屋外での作業は中止)

【留意点】 事前学習による想定および実施後のアクションによる一連プログラム

#### プログラム一連の流れ

①事前学習	国内外における食品ロスの現状を学び活用(加工食品)を考える
②現地説明	担当者から現地で概要や問題点の説明
③現地体験調査	インストラクターの指導のもとで現地体験や実態調査等
④感謝状	市から感謝状の贈呈
⑤学習内容の発表	学習した成果のまとめや問題解決についての取組み概要を生徒から発表

#### 現地でのスケジュール

0:00	体験会場へ集合、グループ事に整列
0:10	オリエンテーション(プログラムの流れ、注意事項など)
0:15	当市の現状や問題点等を説明
0:45	規格外農作物の確認
1:15	加工食品づくり
3:15	加工食品の試食
3:30	体験の振り返り、まとめ
4:00	プログラム終了